

薬学部 北垣智美

私は水田三喜男記念奨学生としてハンガリーに研修で行き、ブダペスト商科大学の学生と交流し、様々な経験を通して主に三つのことを学んだ。一つ目はハンガリーの歴史についてである。ハンガリーは日本とは違い内陸国のため周りに他の国が隣接している。戦争を繰り返すことでハンガリーと隣接国の国境が変わっていき、ハンガリーは多民族国家になった。ハンガリー人はどんな人のことを言うのかという話を聞き、日本では日本人と外国籍の人ではきちんと違いがあるため非常に驚いた。一つの例として、今までは同じ国に住んでいた家族が戦争により国境が変わったことで違う国になってしまい、何年も会えない状況が続いたことがあった。これは日本では考えられないことだと感じた。二つ目はハンガリー人の文化や習慣である。私が今回出会ったブダペスト商科大学の学生は優しい方ばかりだと感じた出来事があった。ドアを最後の人が通るまでずっと開け続けてくれたり、毎日のように夜遅くまで私たちの観光に付き添ってくれたりなど、感謝しなければならないことが沢山あった。しかし、これは彼らからすると当たり前の習慣なのだと話していて、一緒に課題をしている中で、私がこのような文章を作りたい、この取り組みを伝えたいとハンガリーの学生に伝えると様々なアイデアを出してくれて私の要望をしっかりと聞いてくれた。私がブダペスト市内を観光していた際に、店員さんに「あなたは日本人ですか？」と聞かれ、そうだと答えると、日本語を話してくれた。ハンガリーは親日的で私は日本人としてとても嬉しかった。

そして三つ目はハンガリーでの教育である。今回のプログラムではブダペストの幼稚園、小学校を見学させていただいた。幼稚園ではゴミの分別をどのように子供に教えているか、そしてリサイクルをして新しいおもちゃへと作り変えることが出来ることなど、私が幼稚園児の時にそのようなことを教えてもらったことはないため、良い教育方法だと感じた。そして小学校ではハンガリーの民族舞踊を教えてもらった。日本で誰でも踊れる民族舞踊というのは無いため少し難しかったが、とても楽しかった。





お芝居もしてくれて凄く可愛かった。そして理科の授業ではこのゴミはどこに捨てるのが適切なのかをグループワークを通して学んでいた。ハンガリーではゴミ箱の色で分別を行っており、そのような視覚的な方法で分別が出来るように日本もなればいいなと感じた。私はその授業を見学しながら、自分も小学生の頃このような授業をしてほしかったなと思った。そして小

学生の子供達は1つのプロジェクトとして、不要になった紙を集めて、どのクラスが一番集められたかを競争させることで一人一人のごみに対する意識を変えていっているのだなとわかった。

今回の国際グローバル研修を通して、日本では見ることの出来ないものや考え方の違いについて深く学ぶことができた。ハンガリーに行き、日本人の伝統的な考え方やものの見方に関して新しい知識を得ることが出来た。またハンガリーだけでなく、海外の方は日本にどのような印象を持っているのかや、日本のアニメの人気の凄さを肌で感じられ、日本人として誇りに思う。今回の研修を今後の就職活動をはじめ社会に出てからの様々な人との関わり方に活かしていきたい。最後に水田三喜男記念奨学生として本研修に参加させていただき様々な知識を得られたことを心から感謝しております。

